



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月13日

上場会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6092 URL <https://enbio-holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西村 実
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 長谷川 忠玄 TEL 03 (5297) 7155
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,771	△7.7	1,360	27.1	1,368	29.5	856	47.5
2022年3月期第3四半期	7,340	33.7	1,070	94.2	1,056	116.4	580	77.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,142百万円 (75.4%) 2022年3月期第3四半期 651百万円 (70.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	128.97	-
2022年3月期第3四半期	87.52	87.46

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	17,030	7,063	41.0	1,051.51
2022年3月期	16,370	5,973	36.0	886.12

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 6,980百万円 2022年3月期 5,888百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	8.00	8.00
2023年3月期	-	0.00	-		
2023年3月期（予想）				8.00	8.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,418	△6.3	1,317	7.2	1,287	7.5	716	9.6	107.92

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	6,675,200株	2022年3月期	6,675,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	36,844株	2022年3月期	30,344株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	6,643,049株	2022年3月期3Q	6,637,381株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績予想の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、業績の予想等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和され、経済活動も正常化に向けて進んでまいりました。一方で日米金利差拡大を背景とした急激な円安による物価上昇圧力、地政学的リスクの高まりや世界的な原材料価格の高騰などで、景気の先行きは依然として不透明であります。

当社グループの業績に大きな影響を及ぼす不動産業については、国内の低金利環境が続いており、個人向けの住宅販売は底堅く推移しています。企業活動も持ち直しの動きがみられ、法人向けの不動産取引も改善傾向にあります。また、都市部の大型不動産については、円安の進行により外国資本が流入し、都市部の不動産価格が高止まりする一因となっております。また、建設業については、公共投資と住宅建設は底堅く推移しており、設備投資については企業収益の改善等を背景に、持ち直しの動きが見られました。

子会社を展開する中国では環境規制の強化が土壤汚染対策の追い風となっておりますが、ゼロコロナ政策による活動規制により、人出は新型コロナウイルス感染症の流行前を下回る水準であり、経済の回復は力強さを欠いております。

このような背景のもと、土壤汚染対策事業を中心にグループの総合力を活かして、ブラウンフィールド活用事業や自然エネルギー事業を積極的に展開いたしました。

土壤汚染対策事業及び自然エネルギー事業においては、安定して推移しておりますが、増収となっておりますが、ブラウンフィールド活用事業においては、株式会社土地再生投資が大型物件を売却した前年同四半期と比較して、減収となっております。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,771,957千円（前年同四半期比7.7%減）となりました。

利益面につきましては、住宅需要だけでなく、非住宅（一般法人の事業用地）需要も高止まっており、ブラウンフィールド活用事業では販売価格が上昇していることに加えて、販売時点で出口を見据えた原価圧縮により、利益率が大幅増加しております。これにより、経常利益は1,368,190千円（同29.5%増）となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は856,781千円（同47.5%増）となりました。

以下に各事業セグメントの状況を報告いたします。

①土壤汚染対策事業

国内では土壤汚染対策工事の引き合いは不動産市場が活況なため堅調ですが、土地の価格高騰に加えてインフレによる建築資材の価格高騰による影響で計画の中断や消滅する案件も散見され、受注のペースは若干減速してまいりました。土壤汚染の管理を目的とする経済的な対策（リスク管理型手法）や土壤調査と対策工事をセットにして対策費用を保証して実施する責任施工など差別化された提案に注力しております。

潜在ニーズを掘り起こすべく、リスク管理型手法の有力工法として米社から新たな原位置透過壁工法を導入し第一号案件受注に成功いたしました。また、新規の有害物質であるPFOS/PFOA対応サービスを展開し、初受注に成功いたしました。さらに、企業のM&Aの活発化に伴い増加している環境DD（デューデリジェンス）の専門部署を開設し複数案件の受注に成功いたしました。土壤汚染対策工事で培った水処理設備を中心とした環境設備の設計・製作・設置事業の営業を新たに開始いたしました。当第3四半期連結累計期間においては、売上高は前年同期とほぼ同水準でありました。当期の利益率は計画を上回って推移しておりますが、前年同期に比べ利益率の高い大型案件が少なかったため前年同期比で減益となりました。

中国では日系企業の工場移転、事業撤退に伴う土壤汚染対策に注力しておりますが、当第3四半期連結累計期間では上海市の都市封鎖や江蘇省内の移動制限により新規営業活動が停滞し、既受注案件の生産活動に注力し原価率の改善に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,375,481千円（同2.8%増）となり、セグメント利益は333,317千円（同20.6%減）となりました。

②ブラウンフィールド活用事業

株式会社エンバイオ・リアルエステートでは引き続き仕入れ競争が激化している中、大手だけでなく中小の仲介業者にも相対で進められる案件の情報収集を積極的に行い、12物件を仕入れました。当第3四半期連結会計期間においては5物件を仕入れており、当該物件の中には、弊社グループ会社から紹介を受けた案件や土壤汚染対策法の形質変更時要届出区域に指定された工場跡地の案件もあります。販売においては11物件の販売を行いました。当第3四半期連結会計期間においては東金市内モータープール跡地の販売を行いました。

大規模な土壤汚染地を扱う株式会社土地再生投資では、厚木市内案件の解体工事が完了しました。また、4号案件となる八千代市内で大規模な土壤汚染地を購入しました。土壤汚染コンサルティング業務や土壤調査等の受注斡旋業務を8件受託いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,288,327千円（同24.3%減）となり、セグメント利益は805,045千円（同90.6%増）となりました。

③自然エネルギー事業

当第3四半期連結会計期間末日における国内外の再生可能エネルギー発電所は開発中含め47か所、総発電量47MW(うち稼働中は約42MW)となり、所有・管理している各発電所からは、ほぼ計画通りの安定した売電収入が得られました。クリーンエネルギー需要の拡大に伴い、海外を含む新規案件の情報収集、セカンダリー発電所やコーポレートPPA案件、再生可能エネルギーを用いた新たなビジネススキームの検討に注力しております。

[国内]

株式会社エンバイオC・エナジーでは、株式会社シーアールイーが開発する物流施設「ロジスクエア」の屋根を活用したグリーン電力供給の準備をしております。

MaF合同会社では、PPA(電力購入契約)事業の準備を6か所(合計1.7MW)にて進めております。

[海外]

ヨルダンにおける第5号案件(2023年1月完成)は予定通り完成しました。ドバイにて開発中の第1号案件においては、2023年1月完成を予定しておりましたが、2023年3月完成に変更しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,108,149千円(同7.4%増)となり、セグメント利益は263,161千円(同1.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては、総資産は17,030,350千円となり、前連結会計年度末に比べ660,067千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が462,136千円、棚卸資産が1,217,806千円、機械装置及び運搬具が253,524千円、投資その他の資産が202,863千円増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が672,855千円、土地が1,136,722千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、9,967,236千円と前連結会計年度末に比べ429,051千円減少いたしました。これは主に長期借入金が445,279千円増加したものの、買掛金が248,381千円、1年内返済予定の長期借入金が252,078千円、短期借入金が132,000千円、未払法人税等が96,258千円、デリバティブ債務が64,783千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、7,063,113千円と前連結会計年度末に比べ1,089,118千円増加いたしました。これは主に利益剰余金が803,681千円、為替換算調整勘定が261,601千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年11月14日の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,371,635	2,833,771
受取手形、売掛金及び契約資産	1,608,637	935,781
棚卸資産	1,849,053	3,066,860
その他	644,717	950,796
貸倒引当金	△15,084	△15,005
流動資産合計	6,458,959	7,772,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	489,526	453,437
機械装置及び運搬具(純額)	4,202,505	4,456,029
土地	3,019,358	1,882,635
建設仮勘定	191,269	279,640
その他(純額)	11,618	13,373
有形固定資産合計	7,914,277	7,085,115
無形固定資産		
のれん	118,090	112,084
その他	427,562	406,688
無形固定資産合計	545,653	518,773
投資その他の資産	1,451,392	1,654,256
固定資産合計	9,911,323	9,258,145
資産合計	16,370,283	17,030,350
負債の部		
流動負債		
買掛金	620,798	372,417
未払金及び未払費用	73,089	95,162
短期借入金	645,000	513,000
1年内返済予定の長期借入金	1,276,700	1,024,622
未払法人税等	315,263	219,005
契約負債	345,539	294,266
賞与引当金	50,000	23,033
工事損失引当金	2,704	-
その他	116,940	86,747
流動負債合計	3,446,036	2,628,254
固定負債		
社債	36,500	-
長期借入金	6,624,412	7,069,692
資産除去債務	115,317	128,738
デリバティブ債務	133,801	69,018
その他	40,219	71,532
固定負債合計	6,950,252	7,338,981
負債合計	10,396,288	9,967,236

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,797,334	1,797,334
資本剰余金	1,876,574	1,876,574
利益剰余金	2,352,607	3,156,289
自己株式	△15,421	△15,421
株主資本合計	6,011,094	6,814,776
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,940	△27,185
繰延ヘッジ損益	△99,504	△51,412
為替換算調整勘定	△17,482	244,119
その他の包括利益累計額合計	△122,926	165,521
非支配株主持分	85,827	82,815
純資産合計	5,973,994	7,063,113
負債純資産合計	16,370,283	17,030,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7,340,548	6,771,957
売上原価	5,380,804	4,368,353
売上総利益	1,959,743	2,403,604
販売費及び一般管理費	889,122	1,042,756
営業利益	1,070,621	1,360,848
営業外収益		
受取利息及び配当金	56,528	27,359
為替差益	28,500	54,732
貸倒引当金戻入額	12,463	79
受取家賃	3,718	3,909
受取保険金	582	4,863
その他	11,553	21,737
営業外収益合計	113,346	112,682
営業外費用		
支払利息	94,034	93,653
支払手数料	26,056	10,103
その他	7,661	1,582
営業外費用合計	127,752	105,339
経常利益	1,056,214	1,368,190
特別利益		
新株予約権戻入益	304	-
特別利益合計	304	-
特別損失		
固定資産除却損	1,532	-
減損損失	94,607	78,111
特別損失合計	96,140	78,111
税金等調整前四半期純利益	960,378	1,290,079
法人税、住民税及び事業税	342,426	429,321
法人税等調整額	△12,251	9,202
法人税等合計	330,175	438,523
四半期純利益	630,203	851,555
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	49,327	△5,225
親会社株主に帰属する四半期純利益	580,875	856,781

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	630,203	851,555
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△27,466	△21,244
繰延ヘッジ損益	8,259	48,514
為替換算調整勘定	40,076	263,393
その他の包括利益合計	20,869	290,662
四半期包括利益	651,073	1,142,217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	601,000	1,145,229
非支配株主に係る四半期包括利益	50,072	△3,011

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(有形固定資産から販売用不動産への振替)

当第3四半期連結累計期間において、賃貸等不動産として使用される有形固定資産のうち、1,686,168千円を所有目的変更により販売用不動産に振替えております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	土壌汚染 対策事業	ブラウンフ ィールド 活用事業	自然エネルギ ー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,283,883	3,024,686	1,031,978	7,340,548	-	7,340,548
セグメント間の内部売上高 又は振替高	79,675	8,550	-	88,225	△88,225	-
計	3,363,558	3,033,236	1,031,978	7,428,773	△88,225	7,340,548
セグメント利益	419,879	422,298	259,976	1,102,155	△45,940	1,056,214

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△189,916千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益143,975千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「土壌汚染対策事業」セグメントにおいて、47,209千円及び「ブラウンフィールド活用事業」セグメントにおいて、47,398千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	土壌汚染 対策事業	ブラウンフ ィールド 活用事業	自然エネルギ ー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,375,481	2,288,327	1,108,149	6,771,957	-	6,771,957
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,422	10,550	-	26,972	△26,972	-
計	3,391,903	2,298,877	1,108,149	6,798,930	△26,972	6,771,957
セグメント利益	333,317	805,045	263,161	1,401,524	△33,333	1,368,190

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△229,934千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益196,600千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ブラウンフィールド活用事業」セグメントにおいて、78,111千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。